

令和元年 網走市議会
総務経済委員会 会議録
令和元年 10 月 31 日（木曜日）

○日時 令和元年10月31日 午後 1 時02分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 行政視察の取りまとめについて

○出席委員（8名）

委員長	立崎 聡 一
副委員長	松浦 敏 司
委員	石垣 直 樹
	小田部 照
	川原田 英 世
	栗 田 政 男
	澤 谷 淳 子
	山 田 庫司郎

○欠席委員（0名）

○傍聴議員（0名）

○事務局職員

事務局 長	大 島 昌 之
次 長	細 川 英 司
総務議事係長	高 畑 公 朋
総務議事係	早 渕 由 樹

午後 1 時02分開会

○立崎聡一委員 ただいまから総務経済委員会を開会いたします。

本日の委員会ですが、行政視察の取りまとめについてであります。

行政視察の取りまとめ方法については、9月5日開催の当委員会において10月25日までに各委員がレポートを作成し、それを取りまとめることで決定いたしております。

各委員提出のレポートはお手元に配付のとおりです。

レポート様式の体裁等、事務局で整えさせていただいておりますので御了承願います。

レポートを提出していただいておりますが、各委員より口頭にて報告していただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、栗田委員のほうから順次報告お願いいたします。

○栗田政男委員 私のほうから先般行われました、総務経済委員会の行政視察についての報告の概略を申し上げたいと思います。

1点目、1市目の美濃加茂市のあい愛バス事業についてであります。

大変内容を詳しく説明をいただきまして、市の概要、大きさ、その他を含めた中で、ある面で市の負担というのは非常に大きい事業でしたから、どのように運営されているのか、非常に注目してはいたんですが、その中で100円バスということで現在のところ1億円程度の財政負担が必要であると。

それに見合う以上のいろんな効果があるのかなという気がして見ておりました。

今後の課題の中にもありましたように、余りにも利用者がふえてきてうれしい悲鳴といいますか、ふえればふえるほど財政支出負担の割合は多くなるということで、今後それが課題であるということを開かせていただきましたが、細やかにバスを走らせる手法というのは、当市においてもまさしく喫緊の課題として大切な部分でありますから、レポートの中にも書きましたけれども、細やかに走らすのではなく、幹線道路、大きなところにみんなが健康のために通ってきてもらうということはやはり暖かい地域だからできるのかなと。当市においては非常に寒い冬期間もあるわけですから、そういうところは今後の課題になるのかなという気がしましたが、やはりいろんな視察があるように、このあい愛バスというのは一つの成功事例で、特に原課の皆さんが一所懸命これに対して取り組んでるということを嫌というほど感じた視察でありました。

2点目の大阪市のLGBTですが、これはもちろん大阪市は先進地でありますし、人口からいっても当然いろんな性的少数者の人の人口割合というの多いのでありますが、大都市だからこそやなくてはいけないことを率先してやってるというような感じがしました。

ただ、当市においても表面化してないだけでいろんな問題が当然あるように聞いておりますし、今後

それに対する行政としての対応も今後必要であろうかと思います。

いろんなことが、今多様性が求められる時代ですし、特に欧米といいますか、アメリカなどはいろんな性のあり方というのは多様化するのが当たり前のごとく、それが認知されてるような今現状があります。

そういう意味では、やはり先進地、そういうところのいろんな情報を我々も入れながら、当市において、今なすべきこと行政がなすべきことをしっかりとやっていければなというふうに思います。

長岡市のまちなか中心市街地の事業であります。

これについては当市、喫緊の課題として庁舎の建てかえ問題が浮上しております。

そういうこともあり、まさしくその中心市街地に当市の場合はもう計画を予定しているわけですから、その成功事例として長岡市があったわけで大変期待をして視察に行かせていただきました。

もちろん人口も多いですし、中核市ですから市庁舎等の規模は比べものにならないくらいすばらしいものでしたが、一つの考え方として長岡市の場合は、1カ所に集中するのではなくて中心の市街地地区に各所に配置をしながら、人の流れをつくったり、利用者、行政の人たちも含めての話なんです、そういう流れをつくるということを一つの手段として取り組んでいたように聞きました。

という予定で進んで非常に設備もいいですし、それはそれとしてすごく成功してる事例なんです、片や中心市街地の実際に民間の方々、そこで仕事してる方々の経済効果はどうかということをいろいろとリサーチしてきた中では、残念ながら余りそちらの部分の影響力というのは、弱かったのかなと思います。

これは当然当市も、もし、今予定されてるところに建ったならば当然起きることでしょうし、人が来ることを期待する余りに何の努力もなしでそのまま終わってしまうと、商店街の活性化といいますか復活というのか、そういうものはないように感じました。

それは非常に残念な部分ですが、担当者等にも質問しましたが、やはり民間の話なのでその部分については私たちが突き進んでそちらに提言するとかということは、なかなか難しいのかなという答弁もいただいた次第でございます。

いずれにしても非常にこれからそのまちなかをど

うするかというのは、どこの都市であっても地方都市も含めて大変な大きな問題だと思います。

そういう中でどう取り組んでどういう結果を出していくか、それは私たちも含めた、地方都市に限らず、行政に加担する人間の一つの大きな命題ではないかなという思いがしましたし、この事業を通して、網走市の市役所をどういうふうに建てたらいいのかなということもイメージできるような大変いい事業だということを申し送りたいと思います。

私のほうは以上でございます。

○澤谷淳子委員 さきに私の書いたもので訂正してほしいところがあるんですけども、よろしいですか。

私の書いた、新庁舎の長岡市の1番最後の行を、「先を見据えた新庁舎になるよう」を「検討します」に変えてもらっていいでしょうか。

「できることは協力していきたいと思います」ではなくて、それを消して「新庁舎になるよう検討します」に変えてもらっていいですか。

「検討していきたいと思います」に変えてください。

最初に、あい愛バスの美濃加茂市は市営のバスだったというのが、ちょっと網走ではなかなか実現できない部分ではあったんですが、小さいバスが走っていて、ワゴン型のバスなんですけれども、それを導入したことによって5.3倍にも利用者がふえていて、皆さんの足に本当になっていたので、その部分は網走でも何とか何か工夫して小さいバスにできればいいなというのは強く感じたところでした。

また大阪でのLGBTのことについては、やっぱりまちが大きいからもっとカップルは多かったのかなと最初思っていたんですが、件数としては、実際にそこに申請してカップルとして認めてもらったという方は、人口の割には少ないのかなという気もしました。

ただその方たちは、全員何か法的な権利を求めるわけでもなく、そこで宣言できたことが幸せですというような言葉もあったそうなので、そしてまた、大阪市民自体がこれに賛成しますということを8割の方がアンケートで回答しているということなので、やっぱりまち自体も非常に理解があって、また、市役所の職員の方が本当にすばらしいと思いました。

秘密を本当に徹底して守ってくださってるので、当市にそれを持ち込むとなると、ちょっとまだ

まちが小さいので秘密が完全に守られるかっていう意味も含めて、まだまだちょっと理解不足かなっていうがあるので、すぐやっぱり導入っていうのは厳しいというふうに思いました。

あと最後に、長岡市の新庁舎は比較にならないほどの立地条件も、駅直結でしたし、新庁舎もすばらしく隈研吾さんがデザインしていたり、予算も大きかったのですが、その部分では比較にならなかったんですが、皆さんがまちに集ってくるっていうイメージは網走もそういうふうになっていけばいいなということは思いました。

以上です。

○立崎聡一委員長 次。

○山田庫司郎委員 山田ですが、皆さんから大体事業の概要なんかお話されてますから、一応報告書の中にも詳しい数字も含めて触れてますので、そこはちょっと割愛をさせていただきますが、あい愛バスについては、非常に使い勝手をいろいろ考えながら改良しながら、市民の利用のしやすい形で対応してきてるということはすばしかったです。ただ今、澤谷委員も言われてましたけども、民間のバス会社が撤収をしたという背景が一つあるんだと思います。

それで、やはり公共交通を守っていかなければならないという自治体の責務として、こういうあい愛バスということの運行を始めたということで私も理解をしてきましたので、例えばこれを網走市に当てはめたときに、今、民間のバスが2社走っていたいてるわけですが、ここの関係も非常に大事にしていかなければならない部分ですから、公共交通を守らなければならないという課題は網走市も同じなんですけれども、バスの小型化ということで、いろいろ進めていただいている経過もあるんですけれども、バスの乗りやすさ、それからバス路線の見直しとか利用しやすいバスということが、市民からも多く寄せられていることもお聞きをします。それで、市が直にこういうバスを走らすということは、網走市は非常にまだ難しい状況があるかなと私はちょっと判断しますけれども、今、民間で走らせていただいているバスをもう少し利用しやすいように考えていかなければならないのだけど、こんなことをちょっと課題として受けとめてきました。

それと大阪のLGBTですけれども、皆さんから言われています。

確かに非常に大阪市、取り組みも含めて私はすば

らしいなというふうに評価をさせていただきたいというふうに思います。

それで、ただ実績として、大阪市の約88万の自治体ですから、そこで143組が宣誓をされたという報告を受けてます。

そうやってパーセントで考えますと、そしたら約3万5,000人の網走市ならだれも来ない、だれもしないんじゃないかという一つの分析はできますけれども、担当者が言われたことに非常に私は感銘を受けたんですが、「差別する必要もないものは差別をしない」と。

これを原点に進めてきてるんだっていうことを非常に私としては感銘を受けまして、網走市が小さい大きいは関係なしに、国連にも出てる17項目にも、やっぱり差別をしないということの大きなテーマもあるわけですから、私は網走市ができる範囲でやっぱりすぐ動き出す必要があるだろうと、こんな思いで帰ってきました。

それと長岡市ですが、非常に規模が大きい話でしたから、市街地の都市再生整備計画というもとに進めてまして、普通庁舎というのは、市民というのは総合庁舎に行けば全て終わるんだということを求めるのが多いんですけども、この長岡市の場合は、別の発想、逆の発想をして、分庁舎的に分けてやっているということに非常になるほどなということで、目の鱗が落ちたんですけども、ただ規模が大きいのと民間の力も非常にあるんだろうというふうに思いますけれども、補助もある程度もらいながら進めているとはいえ、例えばマンション分譲して全部売ったり、そういう収入や賃貸の収入なんかも含めて、建物については償還をしていくとか、いろんなことを考えられているというふうに思いましたので、ただ網走市の庁舎をこれから建てるときに、この手法をすぽっと当てはめるわけにはいきませんけれども、やっぱり基本的な考え方で非常に学べるころがあったように思いますので、ぜひ網走市も庁舎建設にも、せっかく見させていただいた長岡市の実例をできるものならぜひ生かしていきたいなと、こんなふうに思ってます。

以上です。

○立崎聡一委員長 次、お願いします。

○川原田英世委員 それでは、僕のほうからも端的にお話させていただきたいと思います。

まずあい愛バスですけれども、やはり事業者がいなかったということが一つ1番大きいことなんだろう

うなというふうに思います。

それで、その次に利用が伸びてきたのは、やっぱり運賃体系だろうというふうに思うところです。

公共交通網走も計画を立てているところですけども、やっぱり料金のことは一つのベースにしてもいいぐらい私は議論をしていってほしいなと思います。

特に免許返納の方は無料にすることなどをなどは、これから重要になってくるんじゃないかなというふうに思いますので、お金のかかることですけども、それだけ重要な市民の公共交通を前向きに検討していく必要があるだろうということを実感したところです。

次に大阪のLGBTですか、担当課がダイバーシティ推進室人権企画課ということであります。

国際化に向けた一つの大きな取り組みなんだらうということ。

先ほどありましたSDGsの中の一つの大きな要素でもあるというふうに思いますので、グローバル化の時代に、地域も対応していかなくは国際化する中で、やはり生き残っていくこともできない時代が来るでしょうから、こういったある意味人権的な整備というのは率先して行っていかなくはいけない時代であるというふうに思います。

そういった観点からも、非常に重要だなというふうに実感したところです。

次に長岡でありますけれども、一部で物事として成功してるようにも見受けられたんですが、やっぱり課題もたくさんあるんだなというのは、先ほど栗田委員からもあったように、中心市街地の本当の活性化にはまだまだ取り組みが必要なんだなというふうに思ったところです。

全体的な人口がふえてるわけじゃないんですね。

なのでまちの中心市街地に人を集約させたい、機能集約させたいというところで、その目的は何なのかというところがまだ見えなかったような気がしています。

スマートシティなのかコンパクトシティなのか、郊外に大店舗ができたことによって空洞化した市街地を埋めることで、こういった将来を描いていきたいのかっていうのが、ちょっと見えないまま進んでいて、僕らももう少し聞くべきだったかなと今思うところですけども、いずれにしてもまだまだ大きな課題がある中で中心市街地、ただ、なぜ中心市

街地なのかというところは見えなかったんですけれども、全体的な計画としてはしっかりと緻密に取り組んでいるんだなというふうに思いました。

グラウンドデザインはあるんだけど、その先さらにというのをもっと知りたかったなというふうに思いますが、網走市にとっても同じような形はならないとれいうふうに思いますが、これから検討していかなくちやいけな課題は勉強になったなというふうに思います。

以上です。

○立崎聡一委員長 次、お願いします。

○石垣直樹委員 詳細に関してはレポートに書かせていただいたんですけども、まず初めにあい愛バス、美濃加茂でございますが、北部地域の移動手段がほぼタクシーしかないという状況の中で実施されたあい愛バスなのかなというふうに感じました。

網走においても、南部地区や西部地区が今後、これからさらに進んでいく中で、こういった取り組みが参考になる事業を起こしていかなくちやいけな時期がいつか来るのかもしれないなというふうに、改めて感じたところです。

次に大阪のLGBTに関してですが、やはり思ったより申請者は少ないのかな、ただ毎月定期的に来られている方がいるので、今後もっと宣誓書に対する申請者はふえていくのかなというふうに感じました。

やはり実績のある市ですので、もし網走においても、このような取り組みを行う場合に非常に参考になる視察地であったというふうに感じております。

最後に長岡市、庁舎建てかえでございますが、残念ながら帰ってきてから長岡市を調べたところ、3度の市町村合併を行っていて、恐らく中心市街地と言われるものが市内に分散されているのかなと。

といいますのも、長岡市のまちなかに庁舎を持ってきて行っているものの、実際まちを歩くとまちが閑散としていて飲食店しか賑わっていないのかなというイメージを抱いたので、27万人都市の割にこの程度のまちなかで、さらにこんなにお金をかけて庁舎を持ってきているのにと考えた結果、ほかにも多分繁華街はあるのかなというような結論に達しました。

しかしながら、本当に綿密に計画を立てて実行をしております、非常に参考になる視察となりました。

ありがとうございました。

以上です。

○立崎聡一委員長 次をお願いします。

○小田部照委員 私のほうから簡単に感想を述べさせていただきます。

まずは美濃加茂市のあい愛バスですが、こちらについては市民のニーズを徹底的に調査し、それにお金もしっかりと投資をし、ニーズに合った利用料の値下げや路線の変更、運行時間などの変更により、利用者の大幅な増加につながっておりました。

当市もぜひ取り入れていきたいという部分もありますが、美濃加茂市と比較すると当市の面積は6倍以上あり、路線変更や運行時間の変更、同様の対応するには金銭的な問題、課題も多くなかなか厳しいというのが現状であるのかなってというのが実感です。

しかしながら、ニーズに俊敏に対応するという行政の姿勢や努力には感銘するところであります。

次に、大阪のLGBTに関してですが、こちらはほかの委員の皆さん同様、人口に比べて143組ということで比較的少ない状況であるなどと思いながら、法整備の整合性のほうはどのようになってるのかなと気になっていろいろと質問させていただいたところではありますが、市としてはやれることしかやっていませんというような、特別トラブルもないというようなお話もいただきました。

ただ一つ大阪市の場合は、市営住宅の申請も認めてるというような話がありましたので、その申請に至ってはあくまで本人の自己申請しかないという部分もありますので、そういった意味も含めて今後網走市としても、LGBTに関してはよく協議、検討しながら対応していきたいと考えております。

次に、長岡市の新庁舎建てかえ、まちなか移転ということですが、新庁舎を建てるに当たり市役所のみではなく総合複合施設として、さまざまな機能を取り入れることでまちの活性化につなげていると。

その発想と実現には魅力を感じるところであります。

プロバスケットボールチームの拠点となり、アイスアリーナにも変貌できるようなアリーナや屋根があり、さまざまなイベントが展開できることのナカドマ広場が市役所庁舎に併設され、近隣には社会福祉センターと介護つき有料老人ホームが一体となった施設や子育て支援の拠点となる施設があるなど、庁舎のみだけではなくその周辺一帯を変貌させることにより、まちの活性化につなげていきたいという

視点は網走にも今後庁舎建てかえについて大いに参考になる視点ではあるなと感じました。

他の委員からもありましたが、だからといって飲食店含めてまちに波及効果があるのかといったらそうでもないというような話も実際現場で聞いていますので、そちらも含めて今後庁舎建てかえにはおおいに検討、協議する材料、資料になったと思いますので、今後もよく議論させていただきたいと思います。

終わります。

○立崎聡一委員長 次。

○松浦敏司副委員長 皆さんからいろいろ出されまされたけれども、同様なんです、まず美濃加茂ですけども昭和29年に2市5町で合併したということ。

公共交通の基本方針の中で市の第5次総合計画、これは平成22年から31年までということで、孫子の代まで快適に暮らせるような公共事業の充実を掲げているということでありました。

やはり1番感じたのは、これまで車文化だったのが車プラスバス文化の定着というふうに位置づけて、それで平成29年のあい愛バスの再運行を開始、これがやっぱり大きな転機となって、非常にきめ細かな形なので、いわゆる市民のニーズに答えた運行ということで、これはやはり功を奏して8万人を超える、間もなく10万人を突破するというような状況にまで展望を持ってるという点では非常に参考になると。

当然地理的にも網走とは違うんですが、しかし少なくともまちなかにおいて、バスの運行のあり方、それからバスの小型化というのも含めて、小型化することにより細かく回れるというような方法もありますし、そしてここでは健康ということも言っております。

それはバス停まで歩く、一定の歩く距離もつくってるんですということで、これはもう先ほどお話もあつたように冬のある網走でそれがどうかというのはあるんですけども、いずれにしても市民のニーズに応えた形でバスの運行を徹底して行っている。

免許返上についても、そういう人は無料というようなことで、そういう点でも非常に見習う点があつたなというふうに思っております。

大阪のLGBTですけど、聞いていて担当者は別に難しいことでも何でもなく、市としてやれること

はやるんだということで、それが非常に印象に残りました。

当然市営住宅についても、そういう申請があれば認めるという、そういうようなことでありまして、その意味では網走市としてもできることからやればいいですね。

無理してやることもないし、市としてやれることをやっていくということは、やっぱり大事だというふうに感じました。

網走市でどれぐらいのそういったLGBTの人たちがいるかまだわかりませんが、やっぱりそういう市がそういうふうになってますよというふうになることによって、わかってくるといいますか、そういう申請も出てくるんだろうというふうに思いますので、非常に重要だなというふうに思いました。

最後に長岡市です。

ここも合併してできたということで、やはり役所も分散しているというように、そういう中でまちなかに市役所をということですが、財政力があるからあそこまでできるのかなというふうにも思いましたが、ただまちなかに市役所を持つてくるから、まちなかが中心市街地が繁栄するかといえば、それはそんな簡単なものではないということも話を聞く中でわかったことであります。

ただ全国どこでもそうなんですけれども、国の誘導策によってまちづくりがされると。

網走でも4条商店街がそうですし、そして大型店舗立地法だとか、そういったいろいろな法律ができる中で郊外型の商店ができるということで、国の誘導策によってやった結果、どこの地域においてもいいことがないというのが、長岡でもまちなかの大手スーパーが次々と撤退する中で、まちなかが疲弊していくという中で、こういった取り組みをせざるを得なかったということ見えてきて、非常に難しい問題でもあるなというふうに思いました。

いずれにして網走でも、こういった長岡の取り組みも参考にしながら、これから議論をしていく必要があるかなというふうに感じたところです。

以上です。

〇立崎聡一委員長 それでは私のほうからも述べさせていただきますと思います。

行政視察の内容はもちろんなんですけれども、まずこの行政視察の日程がちょっと厳しいものがあったんだなというふうに思いました。

それは次回に生かしたいと思います。

なおかつ台風の接近も伴いまして、実はすごく天候も心配しました。

皆さんのふだんの行いがいいおかげで、移動中のみ雨が降ったということで、直接雨に当たらなかったということは、本当に皆さんふだんから本当にいい心がけをしてるんだなということを改めて感謝したいなというふうに思います。

それでは美濃加茂市についてなんですけれども、あい愛バス、皆さんいろいろお話をたとおり、いいところと悪いところ、それから概要も全ていろいろお話をいただきました。

ただ、僕が1点思ったのはやはり小田部委員が言ったように、ちょっとまちの広さというものもあるんだろうなと思いました。

とってもいい事業なんですけれども、いいところは取り入れる、そうじゃないところは、もうちょっと煮詰めて考えていくのに十分値するいい事業だったというふうに思っております。

大阪市についてなんですけれども、皆さんからおっしゃられたとおりの以上になかったのは事実だなというふうに受けとめさせていただきました。

僕は個人的には市民意識がもっと高まっていくのがやっぱり1番ベストだろうなというふうに思いますけれども、やれることからやっていこうというのもありなんだなというふうに感じて帰ってまいりました。

長岡市についてなんですけれども、総論でいきますと総体の考え方としてはすごくいいことだと思います。

平成の大合併を踏まえて、庁舎を何回か移転して、たしか4回目だと思うんですけれども、結局中心市街地に戻ってきたのは何なのかということをやはり考えなければいけないし、考えさせられることだったんだろうなと思います。

網走市も新庁舎に向けていろいろ御議論まだこれから進んでいくと思いますけれども、活発に進めていってよりよいものをつくっていけるようになればいいかなというふうに思いました。

以上です。

各委員のほうから既に事務局にレポートが提出されておりますので、このレポートとともに調査概要を添付の上、後日、議長あてに調査結果報告を提出すること、それから議会のホームページに載せるということによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それではそのようにしたいと思います。

全体を通して各委員から何かございませんか。

○山田庫司郎委員 いつものパターンなんですが、それぞれから報告を受けてますから、これに日程を入れて議長に提出するということなんだと思いますが、総務経済委員会としての統括的な何かまとめの意見をつけないということでもいいんですね。

○立崎聡一委員長 例年つけてないと思いますので、今回もつけない形でいきたいと思います。

○山田庫司郎委員 L G B T含めて、委員会のいろんな議論経過の中で総務経済として見に行った、勉強しに行ったという経緯もありますから、それぞれの委員の感じ方は別にして、私もさっき言わせていただいたように網走市の人口規模は別にしてやっぱり門戸を開くべきだろうと私の思いもありますので、その辺特化してというふうに思いませんが、何か委員会としてというのが、もしもてればと思ひまして聞かしてもらいましたので、つけないというのならわかりました。

○立崎聡一委員長 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、これで総務経済委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午後 1 時33分閉会
